

第 26 回 糸 賀 一 雄 記 念 賞 受 賞 者 ・ 団 体 紹 介

パンジーメディア(大阪府東大阪市)



■活動歴

2016 年 社会福祉法人創思苑（東大阪市）を母体として、知的障害者の思いや置かれている状況を社会に知ってもらうため、インターネット放送による番組「きぼうのつばさ」を放送開始。毎月 1 回約 60 分の放送で、2024 年 10 月で 98 回の放送となる。他にも、ドキュメンタリー映画の製作、作品の上映会や講演活動等を実施している。

■活動内容

- ・パンジーメディアは、知的障害当事者が運営し、自分たちの思いや考え、社会への問いかけを発信している。インターネット番組「きぼうのつばさ」は、当事者の視点で社会的な出来事を取り上げる「パンジーの眼」、当事者が作り食べて紹介する料理コーナー「パンジーキッチン」、一人ひとりの生い立ちや夢を語る「私の歴史」、施設や親元からグループホームや一人暮らしなど地域で生活している当事者の姿を描く「ドキュメント地域で暮らそう」など、バラエティに富む内容で構成されており、自分たちの主張をはじめ、日々の暮らしなど幅広く、当事者の思いや暮らしぶりを丁寧に発信している。
- ・入所施設をテーマにした「大空にはばたこう」をはじめとする映画作品も、知的障害者の視点で取材・製作されており、こうした作品の上映会や講演など活動の広がりや、多くのマスメディアにも注目され、知的障害者の現状や思いを社会に伝える機会が増えてきている。

障害当事者により運営され、自分たちの思いや考え、社会への問いかけを、インターネット番組により毎月発信しており、今後も障害を持つ人たちが地域で自分らしく暮らしていける社会を目指した発信が期待されている。こうした傑出した取り組みが評価され、また、今後一層の活躍が期待されるとして、糸賀一雄記念賞の受賞となりました。

第10回糸賀一雄記念未来賞受賞者・団体紹介

堀口 旬一郎 氏(埼玉県秩父市)



■略歴

1983年生まれ。ダウン症・知的障害

社会福祉法人清心会さやかワークセンターに所属。パンやラスクの製造販売に従事している。

2009年～ 埼玉県のダンスパフォーマンスチーム「ハンドルズ」で表現活動を実施。

2012年～東京大学市民後見人養成講座で講師を担当したことを契機に講演活動を開始。

2012年 ホームヘルパー2級の資格を取得、グループホームでの介護補助業務に従事。

2023年 ～バリアフリー演劇「東京演劇集団風」の研修生として活動開始。

現在は、社会福祉法人清心会のアンバサダーとして、情報発信役を担い、研修等の講師や講演活動で障害理解普及啓発活動を実施している。

■活動内容

- ・ 障害当事者として、障害者理解促進に向けての表現活動や講演活動に積極的に取り組んでいる。
- ・ 講演活動での当事者ならではのメッセージの発信は、多くの聴講者の心に響いており、特に清心会創立40周年式典での利用者代表スピーチ「ぼくたちの思いをよく聞いてください。勝手に決めつけないでください。うまくしゃべれないかもしれないけれど、よく聞いてくれれば、わかってもらえることがたくさんあると思います。ぼくたちの通訳になってください。」には、彼の活動の根底にある思いが表れている。
- ・ ダンスパフォーマンス能力も非常に長けており、「ハンドルズ」の初期メンバーとして、現在も中心的な役割を果たしている。
- ・ 2023年から研修生として参加している東京演劇集団風では、本年夏の北海道ツアーにおいてバリアフリー演劇「星の王子様」のヘビ役を担当し、役者としての道も歩み始めている。

ダンスパフォーマンスなどの表現活動や講演活動などで障害当事者ならではのメッセージの発信は、共生社会の実現に向けて、周囲を変えていくエネルギーに満ちた先進的な活動となっており、今後ますますの活躍が望まれるとして、糸賀一雄記念未来賞の受賞となりました。

第 10 回 糸 賀 一 雄 記 念 未 来 賞 受 賞 者 ・ 団 体 紹 介

特定非営利活動法人くにたち夢ファーム(東京都国立市)



■活動歴

- 2014年 貧困等の困難を抱える女性の支援のための居場所づくりをテーマに、国立市と「くにたち夢ファームプロジェクト」共同研究会発足。
- 2015年6月 特定非営利活動法人「くにたち夢ファーム」設立。
12月 女性と子どもの居場所「Jikka」事業スタート。
- 2016年 休日および平日夜間女性総合電話相談事業を国立市から受託。
子ども朝ごはん事業実施。
- 2022年 国立市社会福祉協議会、UR都市機構との3者で、UR賃貸住宅を活用した様々な困難を抱える女性たちの居住支援等を行うことに合意。5月から運用開始。

■活動内容

- ・「くにたち夢ファームJikka」は、DV被害者、貧困による生活困窮者、シングルマザー、高齢単身者、精神障害を抱える人、家に居場所がない若年者、外国籍の人など、社会構造による困難と生きづらさを抱える女性と子ども達に、相談・広報啓発事業をはじめ、シェルターやコミュニティ・生活の場を提供し、当事者女性達が自立し、主体的に生きていくための支援を行っている。
- ・国立市をはじめ、UR都市機構や障害者を支援するNPO法人など、様々な団体と連携、カバーしあう仕組み作りにも力を入れてきており、行政と民間が補完的・有機的に役割を果たすスキームを設立当初から組み立てている。

女性支援新法が施行され、「女性の福祉」、「人権の尊重・擁護」「ジェンダー平等」といった視点から、困難な問題を抱える女性のニーズに応じた本人本位の切れ目ない包括的な支援が益々重要となるが、行政や関係団体等との良好な連携のもと、各々の役割を有機的に結び付けるスキームを構築するなど、傑出した取り組みをしており、今後ますますの活躍が望まれるとして、糸賀一雄記念未来賞の受賞となりました。